

科目名	保育原理						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	幼稚園において幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	乳幼児期における教育は、将来の人間形成の基礎として極めて重要なものである。保育者は乳幼児に寄り添い、養護・教育を行い、その健やかな成長を助ける者として大きな期待が寄せられている。この科目では、保育の基本(理念、役割、制度、実践等)を学び、保育についての幅広い視野を養い、現代社会におけるよりよい保育のあり方を考える力を育む。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				「保育」と「教育」と「養護」について、自分の言葉で説明できる。	
	○			◎		自分自身の「子ども観」を確立し、他者に言語を通して表現できる。	
	◎	○				保育思想に影響を及ぼした人物について、3名以上挙げ、説明することができる。	
		◎		○		日本における子育て支援サービスについて、具体的な例を挙げ説明できる。	
	◎		○		現代の保育者に求められているものについて、説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・保育原理(近畿大学九州短期大学) ・幼稚園教育要領 改訂版 ・保育所保育指針 改訂版 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ※このほか必要に応じて、教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・「保育」と「教育」と「養護」			テキストP5～9上から9行目までを精読しておく。		
	2	自分自身の「子ども観」			自分自身の子どもに対するイメージをまとめておく。(A4レポート用紙半分程度 授業冒頭にチェック→回収)★		
	3	保育思想と児童観の変遷			テキストP43～80、91～110までを精読しておく。		
	4	保育の目的			テキストP111～124までを精読しておく。		
	5	小テスト(1回目)・保育の内容、方法			第1～4回までの授業の内容を復習しておく。		
	6	小テストフィードバック、保育の計画、評価			テキストP137～157までを精読しておく。		
	7	子育て支援の必要性和背景			児童虐待に関する新聞記事を探してまとめておく。(A4レポート用紙半分程度 授業冒頭に回収)★		
	8	子育て支援施策とその展開			保育所や幼稚園で行われている地域子育て支援事業について調べておく。(A4レポート用紙半分程度 授業冒頭に回収)★		
	9	さまざまな保育と課題			テキストP158～171までを精読しておく。		
	10	小テスト(2回目)・保育者の資質向上と評価			第5回～9回までの授業の内容を復習しておく。		
	11	小テストフィードバック、各国の保育			テキストP81～90までを精読しておく。		
	12	多様な子どもたちと保育			障害をもった子どもたちの保育に関する新聞記事を探して、まとめておく。(A4レポート用紙半分程度 授業冒頭に回収)★		
	13	「育ての心」—倉橋惣三の思想—			第12回において配布する資料を精読しておく。		
	14	保育者に求められるもの			倉橋惣三についての資料を読み、感想をまとめておく。(A41枚レポート提出→授業の冒頭に回収)		
15	小テスト(3回目)、小テストフィードバック、まとめ			第10～14回までの授業の内容を復習する。			
評価方法	第14回目においては、授業外学修指示に従い、レポートの提出を行うこと。なお、★印のついた指示については事前課題の提出を求める。授業態度の一環として評価の対象となる。定期試験、小テスト、レポート、授業態度により総合的に評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				20%
	宿題・レポート		◎		○		10%
授業態度				◎		10%	
履修上の注意	第5回目、10回目、15回目の授業においては小テストを実施する。1回目小テスト範囲は第1～4回目までの授業内容、2回目小テスト範囲は第6～9回目の授業内容、3回目小テストの範囲は第10～14回目の授業内容とする。						

科目名	オペレッタ I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	オペレッタというものの概念を理解するために様々な視聴覚教材に触れる。その中で自分達のこれまでの学びから導き出されるオリジナル(独自性)を発見し、よりクリエイティブな創作劇を協同し作り出していく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				オペレッタとはどういったものであるかを正しく理解していくことができる。	
	○			○		児童劇に必要な要素を理解し自身の創作に生かすことができる。	
		○		○		大まかなテーマを決め、協同しオペレッタの外郭を作り上げることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オペレッタとは					
	2	オペレッタとは(過去の作品鑑賞)					
	3	オペレッタとは(過去の作品鑑賞)					
	4	オペレッタとは(過去の作品鑑賞)					
	5	オペレッタとは(過去の作品鑑賞)					
	6	テーマと概要を決める					
	7	テーマと概要を決める					
	8	テーマと概要を決める					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が5回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	カウンセリング演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	姫田 尚子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来科 2年						
授業概要	幼稚園教諭や保育士は園児のみならず、保護者のサポートも不可欠である。その場合、コミュニケーションの一つである「カウンセリング力」が必要とされる。カウンセリングの基礎を理解し、自身の「コミュニケーションのクセ」を確認したうえで演習を通して「カウンセリング力」の習得を目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				自身の心の状態を分析し、説明できる。	
	○					「聴くスキル」である4つのポイントを理解し説明できる。	
	○					「伝えるスキル」である3つのポイントを理解し説明できる。	
		○		○		学んだスキルを使って演習にチャレンジする。	
テキスト・教材 参考図書	●学事出版「人間関係スキルアップワークシート」 ●実務教育出版「TA TODAY」 ●PHP研究所「自分の気持ちをきちんと伝える技術」 ●金子書房 グループ体験学習ワーク						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自分と向き合う～自身を様々な側面から見つめ、新たな自分に気づく					
	2	自我状態(1)～自分と相手の心の状態					
	3	自我状態(2)～心地よい心の状態					
	4	聴くスキル～会話を弾ませるための質問の大切さと働き					
	5	アサーショントレーニング(1)～正直に伝えることのメリット・デメリット					
	6	アサーショントレーニング(2)～気持ちの良い「断り方・頼み方」					
	7	アサーショントレーニング(3)～「謝り方」					
	8	まとめ～前期の復習				前期のまとめをするので、復習しておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1) 毎回の授業の最後に「授業で理解したこと・感じたこと」を記入し提出 2) 演習への取り組みの姿勢 3) 定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	演習	○	◎		◎		30%
	理解したこと・感じたこと	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで習ってきた漢字を復習し、漢字を書く習慣を身に付ける</li> <li>・漢字の正しい使い方を習得し、実習日誌等で適切に漢字を使った文章を書けるようになる</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					日常よく使用する常用漢字を習得する	
		○				同音異義語を場面に応じて適切に書ける	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養&SPI2 わかば社 保育の基本用語						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	漢字プリント(常用漢字)①					
	2	漢字プリント(常用漢字)②					
	3	漢字プリント(常用漢字)③					
	4	漢字プリント(常用漢字)④					
	5	漢字プリント(同音異義語)①					
	6	漢字プリント(同音異義語)②					
	7	漢字プリント(同音異義語)③					
	8	漢字プリント(同音異義語)④					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	後期末正試験で評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	音楽表現Ⅱ				
科目名(英)	music performanceⅢ				
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科2年				
授業概要	<p>保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。</p>				
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
		○			
		○			
学習目標 (到達目標)	<p>目標</p> <p>○ 音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)</p> <p>○ ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)</p> <p>○ 声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)</p>				
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本</li> <li>・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック</li> <li>・チャイルド社発行/こどものうた100</li> <li>・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管)</li> </ul>				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	・今期のガイダンス(10分)・バイエル73番の解説(15分)・バイエル73番練習(65分)			授業までにバイエル73番を弾いてくる
	2	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル75番の解説(15分)・バイエル75番練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル75番を弾いてくる
	3	・おはようの歌の実習(5分)・めだかの学校(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			めだかの学校の弾き歌いを練習してくる
	4	・おはようの歌の実習(5分)・おかあさん(こどもの歌100)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			おかあさんの弾き歌いを練習してくる
	5	・おはようの歌の実習(5分)・こいのぼり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			こいのぼりの弾き歌いを練習してくる
	6	・おはようの歌の実習(5分)・とけいのうた(近大教本)の解説(15分)・楽典知識の復習(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			とけいのうたの弾き歌い練習をしてくる
	7	・おはようの歌(5分)・大きな古時計(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			大きな古時計の弾き歌い練習をしてくる
	8	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	9	・おはようの歌の実習(5分)・すてきなパパ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			すてきなパパの弾き歌い練習をしてくる
	10	・おはようの歌の実習(5分)・おつかいありさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			おつかいありさんの弾き歌い練習をしてくる
	11	・おはようの歌の実習(5分)・あめふりくまのこ(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			あめふりくまのこの弾き歌い練習をしてくる
	12	・おはようの歌の実習(5分)・しゃぼん玉(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			しゃぼん玉の弾き歌い練習をしてくる
	13	・おはようの歌の実習(5分)・とんぼのめがね(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			とんぼのめがねの弾き歌い練習をしてくる
	14	・おはようの歌の次週(5分)・せんせいとおともたち(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			せんせいとおともたちの弾き歌い練習をしてくる
	15	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	16	・おはようの歌の実習(5分)・もりのくまさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			もりのくまさんの弾き歌い練習をしてくる。
	17	・おはようの歌の実習(5分)・ふしぎなポケット(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			ふしぎなポケットの弾き歌い練習をしてくる
	18	・おはようの歌の実習(5分)・さんぼ(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			さんぼの弾き歌い練習をしてくる
	19	・おはようの歌の実習(5分)・いとまき(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			いとまきの弾き歌い練習をしてくる
	20	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル78番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル78番を弾いてくる
	21	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	22	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	23	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる

	24	前期試験					
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しない者は、定期試験の資格がないものとして、受験不可とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎		○		20%
履修上の注意	実習前は実習先から指定された曲の練習を最優先とする。						

科目名	教育実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに第2回の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する	
				○		幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する	
				○		幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる	
				○		部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領解説						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日 間	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のような学習内容を獲得していく ①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導 ②幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成 ③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解			・実習で使用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておくこと ・配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること ・実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成すること		
評価方法	①実習日誌の記述内容 ②指導計画の記述内容 ③実習園による評価を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習日誌				◎		50%
	指導計画				◎		30%
	実習園の評価				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	教育実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	幼稚園実習2回目として、1回目の幼稚園実習を振り返り、幼稚園教諭に必要な自分の今の課題を理解し、技術・知識・目標などを前回よりブラッシュアップさせ、実習に挑む為の学習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				◎		実習までに指導案を3案仕上げる	
	◎			◎		前回の実習評価表や日誌を振り返り次の教育実習の為の自分の課題を理解する	
				◎		自分自身の課題に向けての取り組み方法などを明確にし、実践する	
テキスト・教材 参考図書	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版/ 石橋裕子・林幸範 著						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 前回の教育実習の振り返り 実習オリエンテーションについて					
	2	課題の抽出 指導案作成 理解度テスト			指導案作成の為案を持って来る事		
	3	理解度テスト解説 指導案作成②			指導案作成		
	4	実習目標の設定			前回の実習評価を基に各自、次の実習目標を考えて来る事		
	5	マナーの確認 事例研究			教科書の当該範囲を読んでおく		
	6	日誌の補足指導			教科書の当該範囲を読んでおく		
	7	保育内容総論SCの反省			SCの際の指導案を持参する事		
	8	実習前 諸手続き			実習書類を入れるクリアファイル持参		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業中に理解度テストの実施②授業の出席率・授業態度・提出物の内容・日誌・実習評価を加味し、評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	理解度テスト	◎					30%
	提出物	◎					40%
	実習評価 意欲・態度		○		◎		20%
履修上の注意	1年次の実習指導の応用の科目になります。各自、指導案作成などは自宅学習としてしっかり作成する事						

科目名	言語表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	宿泊を伴う1泊2日の中で創作劇(オリジナルのテレビ番組)の製作を行う。限られた時間の中でグループのメンバーと協力し、自分達の発想力を活かし、出し合いながら創作劇を製作する中で保育者としての表現力・創造性・協働性の力を身につける						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他		
			○	○		グループで力を合わせ表現力を活かした創作劇を作成する	
			○			創作劇を演じる中で人前で表現する力をつけ、楽しさを味わう	
			○			字料の違う仲間やクラスメイトとチームを組み、自分の意見を発したり、相手の意見を聞き入れる事ができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション アイスブレイク					
	2	グループ分け ジェスチャーゲーム フォトフレーム					
	3	話し合い・創作 (テレビ番組制作)					
	4	台本製作					
	5	練習①					
	6	中間発表					
	7	練習② 仕上げ					
	8	発表 振り返り まとめ					
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)出来上がった作品の完成度(4)個人の表現力を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	取り組みに対しての意欲・関心・態度				◎		30%
	作品の発表・完成度		○	○	○		30%
	表現力			◎	○		30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	交流ゼミⅡ					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科 2年					
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備をおこなっていく。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	3学年全体でのレクリエーション				
	2	3学年全体でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備				
	5	交流会での実践				
	6	交流会での実践				
	7	交流会での実践				
	8	交流会での実践				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
						評価割合
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	合奏Ⅱ						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子 高松聡美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	保育の現場で必要不可欠な音楽、中でも良く使用する打楽器の名称や奏法を正しく理解し応用できるようになる。この授業ではクラス単位で協力して準備・練習に取り組むことで、「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」を身に付ける。限られた時間内で作品を仕上げる集中力を持つ。社会生活の仕組みを合奏を通して学ぶ事ができる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
					○	資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
					○	準備・後片付けが速やかにきれいにできるようになる。	
			○			楽器の名前を覚え、正しく使用する事ができる。	
	○			○		チーム内でより良い作品にするための話し合いができるようになる。	
○	○					他のチームの良いところ、改善点などを分析できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	高松聡美編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	楽器の名称と奏法―楽器の絵を書き名称を覚え演奏法を習得する			資料・楽譜をファイルにまとめなくさないようにする。		
	2	小編成合奏―チーム分けをし少人数で合奏をする			名称奏法の確認		
	3	小編成合奏―チーム分けをし少人数で合奏をする。			チームでの練習		
	4	小編成合奏―チーム分けをし少人数で合奏をする。他チームの演奏を分析する。			チームでの練習		
	5	大編成合奏―クラス全員での合奏をする。			クラスでの練習		
	6	大編成合奏―クラス全員での合奏をする。練習効率を話し合うことができる。			クラスでの練習		
	7	大編成合奏―クラス全員で合奏をする。強弱などのニュアンスをつけられるようにする。			クラスでの練習		
	8	総仕上げ―楽器の名称奏法について確認 合奏総仕上げ発表			個人での確認・クラスでの練習		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。(4)楽器の名称についての筆記。奏法の実技テストを行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品			◎			25%
	授業態度				◎		25%
	資料・楽譜楽器管理					◎	25%
楽器の名称・奏法		◎	◎			25%	
履修上の注意	仕上がりに妥協せず、よりレベルアップを目指してもらいたい。						

科目名	子どもの食と栄養SC						
科目名(英)	Schoolig of Child Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	授業科目「子どもの食と栄養」で学んだ内容を踏まえて、年齢や発達段階に沿った食事を作成する。また、その作成の過程を通して、保育における食育の意義や特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について理解を深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が豊かな食生活を実践することができる。	
	○					保育における食育の意義を踏まえ、その内容を実践することができる。	
				○		乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活の情報をもとに、その状況に沿った食事を準備・提供することができる。	
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応を行うことができる。	
	○					食事を準備・提供する過程で、「食」の本質について理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	1日目 調理実習後の振り返りとまとめ					
	5	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	2日目 調理実習後の振り返りとまとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調理実習に臨む姿勢・態度				◎		10%
	事後レポート	○	◎				10%
	出席状況				◎	◎	80%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	子どもの保健 I ①						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		こどもの年齢別の成長について理解する	
	○	○		○		体の名称を覚える	
	○	○		○		こどもに多い疾病を知る	
	○	○		○		現場で生かせる知識を身につける	
	○		○			応急処置のロールプレイ	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる子どもの保健(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どものための保健活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	子どものための保健活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	身体発育と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体発育と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	生理機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	生理機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	運動機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	運動機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	精神機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	精神機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	子どもの精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	子どもの精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	子どもの生活と健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	子どもの生活と健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	定期試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		◎		80%
	小テスト	○	○		○		10%
	宿題・レポート						5%
	発表・作品			△	◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	児童家庭福祉						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	児童をとりまく現在の環境や現状の把握、また、これまでの歴史や児童家庭福祉にまつわる制度や施策を学ぶ。 またはこどもを取り巻く現在の課題や保育						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変換について理解する	
	○					こどもの人権擁護について理解する	
	○					こども家庭福祉の制度や実施体系について理解する	
	○					児童家庭福祉の現状と課題について理解する	
○	○					児童家庭福祉に関わる機関及び施設の概要とそのサービスについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	児童家庭福祉 こどもと家庭を支援する[第3版] 大津泰子著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション こども家庭福祉とは			教科書の当該範囲を読んでおく		
	2	現代社会とこども家庭福祉①			教科書の当該範囲を読んでおく		
	3	現代社会とこども家庭福祉② 諸外国の子育て支援			教科書の当該範囲を読んでおく		
	4	こどもを取り巻く社会環境の変化の方向性			教科書の当該範囲を読んでおく		
	5	こども家庭福祉のあゆみ			教科書の当該範囲を読んでおく		
	6	こども家庭福祉に関連する法律			教科書の当該範囲を読んでおく		
	7	こども家庭福祉サービスの動向			教科書の当該範囲を読んでおく		
	8	保育サービスの多様化			教科書の当該範囲を読んでおく		
	9	保育所における保育サービス			教科書の当該範囲を読んでおく		
	10	認定こども園について			教科書の当該範囲を読んでおく		
	11	こどもと家庭を取り巻く問題① 待機児童			教科書の当該範囲を読んでおく		
	12	こどもと家庭を取り巻く問題② こどもの虐待 DV			教科書の当該範囲を読んでおく		
	13	養護を必要とするこどもへの施策			教科書の当該範囲を読んでおく		
	14	外国籍のこどもの支援			教科書の当該範囲を読んでおく		
15	まとめ 正試験対策 プレテスト			教科書の当該範囲を読んでおく			
評価方法	(1)授業用ノートの提出の実施(1回)(2)宿題・レポートを数回実施 (3)定期試験を実施する。 成績評価基準は定期試験の点数と平常点を平均し、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D (59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	宿題・レポート・提出物	○	◎		◎		15%
	出席・授業態度				◎		25%
履修上の注意	欠席が5回以上の場合には定期試験の受験資格を失う。授業用のノートかファイルを用意する事。						

科目名	図画工作Ⅱ						
科目名(英)	Arts and Crafts Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川村愛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	本講義では、1年次で学んだことを踏まえ、子ども達の豊かな感性を伸ばすことができる保育者としての視点・気づきを大切に、自らも楽しみながら主体的に制作に取り組むことを目標とします。制作活動を通して、計画→制作→鑑賞→計画を繰り返し、保育者として実践的な感覚を養います。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○	○		作品の制作に主体的に取り組むことができる。	
	○	○	○			保育者として制作活動に必要な技法と画材の知識と技術を向上させることができる。	
		○				子どもの発達を想定して制作活動の計画準備をすることができる。	
	○					相互に作品を鑑賞し、保育者としての視点とポキャブラリーを身につけることができる。	
テキスト・教材 参考図書	図画工作(近代テキスト)、阿部恵編著『まるごと園行事⑥作品展』チャイルド本社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 幼児の造形表現における発達				教科書に目を通す。	
	2	幼児の造形活動 フィンガーペインティング				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	3	個人制作 平面 異なる表現技法を使って				—	
	4	個人制作 立体 異なる素材を使って				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	5	前回の作品鑑賞 / 共同制作 大きな絵のための準備				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	6	世界を作る 共同制作 大きな絵の制作①				—	
	7	世界を作る 共同制作 大きな絵の制作②				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 次回授業の準備をする。	
	8	まとめ 制作活動の実践に向けて				今回の授業を踏まえレポートを作成する。 スクーリングの準備をする。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業内で作品を制作し提出をする。(2)作品について発表をする。(3)レポートを数回実施する。欠席等で作品の提出ができない場合、別課題を課する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品制作		◎	○	○		60%
	発表	○	◎				20%
	レポート	○	◎		○		20%
履修上の注意	汚れてもよい服装で授業に臨むこと。						

科目名	図画工作SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川村 愛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	授業科目「図画工作Ⅱ」の内容を踏まえて、保育士としての実技基礎技術を実践する。その作品の制作・片付けの課程を通して、保育現場での子どもたちとの関わりや保育者としてのあるべき姿勢についての理解を深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。	
	○			○		個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の又草・言葉で説明できるようになる。	
	○					明確な狙いを持って、保育現場で実践することが可能な教材を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 図画工作						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	2	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	3	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	4	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	5	2日目	絵本の制作の続きと発表のリハーサル			1日目の作品の内容を踏まえて発表のシミュレーションを行う。	
	6	2日目	作品の発表				
	7	2日目	作品の発表				
	8	2日目	全日程の振り返りとまとめ			今回のスクーリングの内容・過程を踏まえ、レポートを作成する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎		◎		70%
	レポート	◎	○		◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	乳幼児の発達Ⅱ						
科目名(英)	infant of development Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	眞崎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	乳幼児の発達Ⅰで学んだ0～3歳児の発達の応用を実技、演習を交えた形により深く学ぶ。赤ちゃん人形を用いて食事、着替え、排泄、食事、授乳などの実際を体験し保育現場での関わり、技術を知る。健康管理や乳児保育の特別な配慮も1年次に続き学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					乳児保育における発達の道筋を知り、乳児保育士の役割やかかわりを説明できる。	
			○			乳児の生活に沿った知識技術を学び、乳児が安全に心地よく生活できる関わりを行うことができる。	
				○		手遊び発表や手作り玩具作りを通して月齢に合った表現、実技を行い工夫することができる。	
	○					乳幼児の健康管理について理解し、注意すべき疾病や完全症を述べることができる。	
			○			発表者の発言や実技を受け、自分の意見を述べるなど積極的に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト 同文書院 はじめて学ぶ乳児保育 保育所保育指針 参考図書 中央法規 乳児保育						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	乳幼児の発達Ⅰ 振り返り 授業ガイダンス 演習			乳幼児の発達Ⅰに関する復習を事前に行っておくこと パソコンを準備しておくこと		
	2	手遊びわらべ歌について理解を深める			授業内でテーマを与えます。各自調べ、次回までに発表準備しておくこと パソコンを準備しておくこと		
	3	手遊びわらべ歌の発表 わらべ歌の実践			発表の見せ方の工夫や配慮をする、歌詞を書いたプリントを準備すること		
	4	0～2歳 月齢別にみる 基本的な生活習慣《睡眠 着脱》			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	0～2歳 月齢別にみる 基本的な生活習慣《排泄 食事》			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	乳幼児の健康管理			パソコンを準備しておくこと		
	7	0歳～2歳乳児と遊べる手作り玩具制作			保育室使用		
	8	乳幼児のこころと人のかかわり			パソコンを準備しておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)正試験の実施 (2)乳児保育に関する発表・作品 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

科目名	保育実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Child Care Field Study I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	幼稚園実習 I、II の経験を踏まえ幼保の社会的役割や成り立ちの違いを正しく理解する。特に0、1、2歳児の細かな発達の違いや連続性、以上児への発達のつながりを理解し、実習の中で実践と知識をつなげより理解を深めるための基礎を培っていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	◎				保育実習の目的を正しく理解する	
		◎				幼稚園、保育園の違いについて正しく理解し説明することが出来る	
		◎	◎			保育園訪問にあたっての電話や訪問のマナーを理解し実践できる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、実習の目的について、リストアップについて					
	2	保育実習の流れについて					
	3	実習生調査票について、調査票書き					
	4	実習アポイントの電話の掛け方、電話のマナーについて					
	5	0歳児の発達について					
	6	1歳児の発達について					
	7	実習に必要な書類について					
	8	オリエンテーション時の訪問マナーについて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	保育実技Ⅱ						
科目名(英)	childcare practice						
単位数	1単位	時間数	8時間	担当者	長田 皓子		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科2年						
授業概要	教師として子どもたちの前に立った時、いかに子どもたちを喜ばせながら子どもたちの意欲を引き出すきっかけづくりを学ぶ。また、学生自身が創る(作る)喜びを学びながら体験体得をしながらより良い教師を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					集中させるときの手遊び、教える手遊び、年齢にあった手遊びを身につける。	
	○			○		製作活動を幅広く経験する。	
	○		○			身体的活動を(体育)楽しくするきっかけづくりを学ぶ。	
	○	○				遊びの中にも知的活動があることを知る。	
	○					子どもたちから意欲を引っ張り出す方法を学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	教員が適宜準備する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の内容を説明する。(自己紹介・手遊び、歌遊び)					
	2	毛糸を使ってお話・手品・一人あやとり					
	3	パネルシアター(見る・作る・演じる)					
	4	パネルシアター(見る・作る・演じる)					
	5	折り紙(おみやげ)・不思議な輪・むつくり三角・羽ばたく鳥など					
	6	ふしぎな絵(色が消えたり現れたり・・・)				A5のクリアファイルを用意すること	
	7	ふしぎな絵(色が消えたり現れたり・・・)					
	8	紙皿シアター(つやのある紙皿)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	以下の通り、評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		○				10%
	発表・作品				◎		70%
	出席						10%
	積極的参加						10%
履修上の注意	学びたい・身につけたいという意欲を重視する。						

科目名	保育内容総論SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について理解し、説明できる。また、模擬保育実践を通して指導計画、準備の重要性と子どもの最善の利益について深く思考し、反省をもとに検討し再構築することができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					保育のねらいについて理解し、指導計画に展開することができる。	
	○					保育における指導計画の重要性を理解し、長期的な視野を持ち保育を行うことができる。	
	○	○		○		模擬保育を通し、他者の保育を客観的に捉え、自己の保育に活かす事ができる。	
	○	○		○		模擬保育を実践し、他者からの意見や批判をもとに自身の保育計画を改善することができる。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義『保育におけるねらいの意味』					
	2	模擬設定保育①					
	3	模擬設定保育②					
	4	模擬設定保育③					
	5	講義『保育教材、指導案の役割について』					
	6	模擬設定保育④					
	7	模擬設定保育⑤					
	8	模擬設定保育⑥					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対する意欲関心態度(3)模擬保育への取り組み、準備(4)レポート提出で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	意欲的な参加・発言				◎		40%
	模擬保育への取り組み		◎	○	◎		40%
	レポート	○	◎				20%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	幼児体育Ⅱ						
科目名(英)	Infat Physial EducationⅡ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			マット運動の補助ができるようになる。	
			○			跳び箱運動の補助ができるようになる。	
			○			鉄棒運動の補助ができるようになる。	
			○			逆上がり(個人)ができるようになる。	
			○			外遊びの指導・展開ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「幼児体育」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼児体育の必要性について				実技活動のできる服装の準備	
	2	跳び箱運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	3	鉄棒運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	4	跳び箱運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	5	鉄棒運動の安全な補助について				実技活動のできる服装の準備	
	6	外遊び・ゲーム等を知らせる				実技活動のできる服装の準備	
	7	外遊び・ゲーム等を知らせる				実技活動のできる服装の準備	
	8	実技テスト・レポート				実技活動のできる服装の準備	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	①授業への取り組み方(服装等についても)評価する。 ②授業中の各種目についてもテストを行う。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			◎			70%
	小テスト			○			10%
	宿題・レポート			○	◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	①出席が6回に満たない場合は単位の修得は認めない。 ②服装においても運動に適さない場合、改善の余地がない場合は①と同様とする。						

科目名	子どもの食と栄養						
科目名(英)	Child Nutrition						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	平成30年度に「保育所保育指針」が改訂施行され、子どもの五感の育成をめざした食環境の構築など、施設全体で連携してさらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに、栄養の基本的知識や発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取と健康的な食事のあり方を学ぶ。また、保育における食育の意義や現在、深刻化している食物アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。	
	○					乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活について説明できる。	
		○				保育における食育の意義とその実践について具体的に述べるができる。	
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応ができる。	
			○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。		
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの心身の健康と食生活の意義-子どもの食生活の現状と課題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	栄養に関する基本的知識-栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント-妊娠期・授乳期の栄養・食生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活-乳汁栄養、離乳の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	幼児期の心身の発達と食生活-幼児期の食生活の特徴、間食の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	学童期・思春期の心身の発達と食生活-学童期・思春期の食生活の特徴、学校給食の重要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	食育の基本と内容・方法-保育における食育の意義とその実践			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	家庭や児童福祉施設における食生活と栄養			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養-食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	生涯スポーツSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	水上 勝彦		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 2年						
授業概要	平均寿命の延伸に伴い、一人ひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能に応じて、生涯にわたり様々な形でスポーツとの関わる機会を設け、スポーツにおける多くの意義と役割を暮らしの中に取り入れることを念頭に置き、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも趣味的な観点でスポーツに親しむことができることを目標にする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
		○				健康寿命の考えを念頭に置き、生涯に渡って活動することについて学びを深めることができる。	
	○					スポーツを行う中で、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。	
		○				レクリエーションの要素を含めながらの運営を意識することができる学びを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	2	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	3	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	4	1日目(スポーツ競技を通じての関わりを持つ)					
	5	2日目(学年交流会への参加)					
	6	2日目(学年交流会への参加)					
	7	2日目(学年交流会への参加)					
	8	2日目(学年交流会への参加)					
	9	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	10	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	11	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	12	3日目(生涯健康を念頭に実施することができるスポーツを行う)					
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	レポート作成		○				50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						